

認知言語学と英語教育：理論から応用へ

講師：京都大学大学院人間・環境学研究科教授 谷口一美氏

標記の講演会が2016年10月11日13:10より1号館164教室において開催された。講師の谷口一美氏は日本における認知言語学をリードする研究者の一人であり、幾多の著書、論文を発表するほか、関係諸学会において要職を歴任している。

谷口氏は、学生による聴講が多いことを踏まえ、「言語学とは何か」から始め、認知言語学の位置づけ、目標、基本的な考え方を分かりやすく解説した。その上で、英語の前置詞の多義性や受動文の解釈を例に、イメージスキーマや行為連鎖モデルといった認知言語学ならではの道具立てがいかに機能するかを示し、さらに、それらが英語教育に応用される可能性を、すでに出版されている文法書なども紹介しながら具体的に論じた。とりわけ語順については、それを意味のまとまりによる配列と捉えることによって学習効果を高めようとする実践的試みがあることを紹介し、その配列が、行為連鎖のフローに基づくものであることを強調した。

会場には学生、教員、さらに一般の参加者が多数来場し、熱心に耳を傾けた。また、一般の参加者からも質問が寄せられるなど、大変有意義な会合となった。

(文化科学研究所所員 中川直志 (国際英語学部))



